

ニシヤクソンと云ふのは、インドの黒ん坊で、尊ぶと云ふ字が書いてある。

シヤクソン氏と云ふのは、高橋氏とか云ふ氏だ。

顔癩とは口から泡を吹いて引つくり返るドストイエフスキーや、ピタゴラスの持病だった。

英語でエブレブシイと言ふ。

サンマヤシンジシンの氣持が味へるとか。

時間がないので省略して話すが、

釋迦は菩提樹で、或黎明に大正覺を得た。

女の匂ひを嗅ぐ丈で、卒倒しそうな程彼の腦神經中樞は衰弱してゐた。

彼の心臓には血液が凝固して乳色になつてゐた。

一碗の流動食を癩病の女が差し出した時、彼はむさぼるやうに女の腐り落ちた指も飲んで了つた。

絶大なる空腹は法無我の境に見られる。

釋迦は了つたと思つた。